

## 授業改善プラン

地域名	東上総教育事務所	学校名	茂原市立富士見中学校
-----	----------	-----	------------

### 1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○平成31年度調査では、生徒質問紙において『数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか。』については、解答しなかったり、あきらめたりした生徒が全体の40%以上を示していた。正答率を比較してみると、全国をやや下回る結果であった。問題形式別に見てみると、「記述式」が大幅に全国平均を下回っていた。事象を数学的に解釈し、説明したりすることに課題が見られた。

### 2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

○1つの設問に関して複数の解答方法が考えられるような問題を検討し、学習活動の中に取り入れることで学力の向上を図ることができるであろう。

### 3. 具体的な実践

- 全国学力・学習状況調査の問題を使って、複数の解答方法が考えられる問題に対して自分の考えを書くように設定した【別添資料1、2】
- 生徒が自分の考えを書くような課題を設定し、説明等を書かせるための工夫をした。
- 考えを共有する場面の工夫をし、考えの共有を図った。
- 数学的な視点・表現を用いて生徒相互に伝え合う場面を設定した。

### 4. 成果

- 授業実施学年の様子から  
令和3年度は本校数学科で実践を行った。自分の考えを整理し、説明することを苦手としている生徒が多い中、取り組もうとする意識は高まったように思う。課題に取り組んだ後は、生徒同士で考え方を共有したり、説明し合ったりする場面が見られるようになった。
- 授業改善の観点から  
簡易的なルーブリックを考えながら、生徒が自分の考えを書かせる課題設定を繰り返し行ったことで、説明することに対する意識が前向きになった。

#### ◆担当指導主事から（東上総教育事務所 指導主事 中館 武優）

○全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、自分の考えを数学的な表現を用いて書くことについて研究を進めている。また、評価基準表（ルーブリック）を作成し、指導改善に生かすとともに、生徒の記述する力の育成を目指している。検証授業では、お互いの考えを共有する場面を意図的に設定し、説明する力の育成を目指した授業を展開した。